

## 2020 年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞 実践ケア賞

福島県須賀川市立西袋第一小学校

【設立年月日】1874年1月

### 【授賞理由】

本校は「ともに生きる」を教育指針に掲げ介護福祉に関する授業やボランティア活動を実践されてきました。認知症の人を含めたさまざまな人のおかれた状況を正しくとらえ共生の意味を理解していくことは地域社会における福祉力を鍛えるために非常に重要な意味をもちます。

これらの取り組みは、認知症ケア賞（実践ケア賞）の受賞に相応しいといえます。

### 【団体概要】

須賀川市立西袋第一小学校の第6学年児童。

総合的な学習の時間、単元名「ともに生きる」の授業として活動。

### 【事業活動】

介護福祉士の講話や、介護体験を行った。

また、令和元年度の台風19号により浸水した介護福祉施設「グループホームすずらん日向（認知症対応型共同生活介護）」で、清掃などのボランティア活動を行った。

### 【活動内容等】

活動目的：

福祉についての追求活動を通して、共生の理念を学び、「ともに生きる」意欲を育む。また、活動を通して、表現への意欲を高め、学び方やものの考え方を広げる。

活動の特徴：

様々なハンディキャップをもつ人を知ること、ハンディキャップをもつ人に出会うことを大切にしてきた。盲目のランナーとその伴走者、認知症の老人とその介護施設の方、というように、実際に共生を実現し、共に生きがいをもって生活している人から話を聞き、実際に体験活動を行った。令和元年度は、台風19号による被害を受けた介護福祉施設でのボランティアも行った。

活動の効果・影響：

子どもたちの意識が変わった。ハンディキャップをもつ人や認知症老人に対して、「かわいそう」といった意識を持たなくなった。どんなハンディキャップをもっていても生きていくことのすばらしさを理解し、それを支える人々への尊敬の念を抱くように

なった。特に、認知症老人に対しては、「自分たちでできる事」で役に立とうとする意欲が高まり、自分の働きかけで喜ぶ老人の姿を見て、自己存在感・有用感も高まった。

今後の活動予定：

令和2年度も、総合的な学習の時間に同じ単元を計画した。

その他：

他にも、幼くして我が子を亡くした母親の話聞き、そのボランティア活動について理解を深める授業などを実施した。